

支部だより

支部展特集

東京東支部展を終えて

支部長 張京浩

新日美東京東支部展は、このたび第二一回展を迎えました。と言う事は、同支部はすでに二一年という歳月を経たということだが思えば長いようでもあり、また、あつという間の気もします。

しかし、この二一年という歳月は、単なる月日の経過だけを意味するものではなく、確かな成果と蓄積もみせています。

今回の支部展は三月一七日〜二三日までかつしかシンフォニーホール二階ギャラリーで開催しました。支部員二三名で作品四六点の中、油彩二四点、水彩七点、アクリル四点、バステル三点、日本画一点、その他七点が展示となりました。

展示作品は、それぞれに個性ある作品が並び見飽きないし作品レベルが年々向上している。と大変好評をいただくことができました。いいなと思える絵は皆、どこか工夫があつたり、色や形が理にかなっている部分があります。

作品をとり上げ、色という共通の問題のとらえ方や画材による表現の違いなど、色彩の基礎をさまざまな視点から理解できるように絵具を使う上で、基本的に注意す

ることは、たくさん絵の具を混ぜると、元の色味がなくなり、濁つたり、くすんだりします。塗りたい主な色味に他の二色で変化をつけるように色の三つの性質を(明度・色相・彩度)理解して描いていくことが大事です。

最終日まで多くの鑑賞者を迎えながら会期を終えることができたことをお伝えし支部展の報告とさせていただきます。

来年もより一層レベルの高い作品を描けるように皆、頑張りたいと思います。皆様方のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

盛況のさきたま支部展

支部長 住佐 美紗子

京都巡回展と日程がぴったり重なった今年のさきたま支部展、三月一九日〜二二日開催した。

搬入出の業者が直前に入院し、出品予定者が病気やら、家庭の事情で出品を取りやめ、予定どおり開催できるか心配になった。

結局、例年のメンバーに加え特別出品者として神田紀和先生に参加して頂くことが出来た。力作が加わり会場を盛り上げた。松

本市の鈴木健夫さんも元気にクレパス画を送ってくれた。静物三点だったがみずみずしい作品は、九〇歳過ぎても見る者に感動を与えてくれる。我々も、もっと頑張らねばと思う。もう一人の高齢者、本田義雄さんの墨彩画も毎年話題になる。

会場は大して広くないので現在の一四、五名くらいが丁度いいと思っている。竹林の中の和の建物はいつも好評で、毎年ここを訪れるのを楽しみにしている地元の人が増えた。筍が顔を出しはじめ、緑が美しい季節なのが嬉しいけど、会場の予約をとるのが大変で抽選に何度も外れてしまう悩みがある。お陰様で地元ファンが定着して私のジム友も大勢来てくれた。支部として勉強会は開催しないのだが、それぞれペテランなので画風や作品はとも種類も多くいろいろ楽しめる、と言ってもらえる。忙しい人達が年に一度の発表の場として活動をこのスタイルで続けていければと思っている。後は皆、元気でいくつになっても続けられるかという、ちよつと気がかりがあるのだ

が……。気がかりはあるけど芸術の神様がお守り下さると信じて、しびしび支部長は進んでいくよりないと思う。

千葉支部展を終えて

支部長 小宮山 修

第二二回千葉支部展は我孫子市あびこ市民プラザギャラリーに於いて平成三十一年三月二二日(金)〜二七日(水)の六日間開催しました。

出品者一六名 絵画三五点、工芸三点、会期中の来場者は四四三名 一日増やした割にはチョット少なく感じました。

出品会員を紹介しますと初出品者が四名でした。絵画で加納明、杉田保巳、田代和子、工芸で片岡美智子 それぞれの個性的表現が支部展に華を添え見応えがあ



準備万端、開催までのひと時